



再生

中津国の大神となる

須佐之男命は、試練に耐える大
国主命をだんだん頼もしく思うよ
うになっていました。

ある夜、大国主命は、須佐之男
命が眠っている隙に、須勢理毘売
と共に、生太刀・生弓矢・天の詔
琴を携えて逃げ出そうとしました。
須佐之男命の髪を天井の垂木にし
っかり結わえて入口を大きな石で
塞いで逃げました。ところが、琴
が木に当たって鳴ってしまったの
で、須佐之男命は目を覚まし、室
屋を引き倒しながら追って来るで
はありませんか！

根の国とこの世との境―黄泉比
良坂―まで追いかけてきた須佐之
男命が、もはやそこまでと、大国
主命に大声で呼びかけました。

「その生太刀・生弓矢を使って、
兄弟神たちを山や川、大地の果て
へと追いやり、お前こそが中津国
の大国主神、また宇都志国玉神と
名乗りなさい！そして娘を妻と
して幸せにしてください！」

おい 頼んだぞー！
こうして、須佐之男命の言葉を
受けた大国主命は、出雲に帰り、
国造りに励んだのでした。

*生太刀・生弓矢・天の詔琴
生太刀・生弓矢は地上を治める力を表し、天の詔琴
は祭りを司どる力を表す。大国主命は、この三品を
得て中津国を治める力を得たのである。